

「スネーク・オイル」

宇城悠人

【シーン0…不滅の証明】

M0…煽ってフェードアウト

静寂の中、酒井、平田板付

M1:「aria」E(=V1「OP」E)、歌唱スタート

声

魂の存在が科学的に解明された。

それはヒトのDNAの10の24乗倍の情報量を持ち、

死せる生命から生まれ行く生命へ、種の隔たりを超えて移動する。

ヒトから花へ、鳥へ、虫へ、獣へ、微生物へ、渡り歩く魂は不滅。

この事実に関する最初の論文の掲載から数年のうちに、魂の離脱を人の死の基準とするよう、法改正が行われた。

前世やその前世の履歴を知る技術は、人々の間に新しい軋轢を生んだ。

やがて社会は魂の存在を中心に回りはじめた。

【シーン1…開闢】

M1「aria」流し切りでテロップ「創世記」

若い男女が互いへの期待に胸を膨らませながら軽薄な会話に興じている。

「どんな男がタイプなの?」「えーそんな難しいお仕事してるんですか、カッコいい」「こいつマジで飲むとヤバいから気をつけたほうがいいよ」「なんかKPOPの人に似てるよね」「私じつはけっこうオタクなんですよ」など口々に言い合っている。

男 はいはいはい注目注目! そろそろあれやっちゃいますか! 王様ゲーム!

イエーイ! と盛り上げる男たち。「ええ〜?」「何それ〜?」と言いつつ前のめりな女たち。

男 はい、このくじを引いて、赤いのついてるやつ、引いた人が、王様だから!

女 王様?

男 で、王様が他の人に命令したら、絶対きかなきゃダメね! オッケー? 王様の命令は?

全員 ぜったーい!

男たち イエーイ!

男 はい、王様だくれだ!

配られたくじを見る男女。

王 俺だ!

「えー」「うわ、どうしよっかなー」「王様！ はやく命令してよー！」「王様！」「エッチなやつとかやめてよー？」「王様！」「王ー！」など言っているうちに、一人ずつ王様の元にかしづいていき、いつの間にか合コンの参加者から王に忠誠を誓う臣民になっている。

臣民1 王。ご命令を。

臣民2 王。なんなりと、ご命令を。

臣民3 王、民が飢えに苦しんでおります。ご命令を。

臣民4 王、恐ろしい病が流行しております。ご命令を。

臣民5 王、石斧を携えたネアンデルタール人の軍勢が攻めてきます。ご命令を。

臣民ら 王、ご命令を！

王、臣民らを制し、ゆっくりと風を読み、

SE…風の音ヒュー

王、土に触れる。

SE…水の音ピチヨン

王 この土地は、麦がよく育つ。1番と5番は、民に土地を与え、黄金の麦畑を育てよ。

臣民1・5 は。

M2…「この国を治らす」

王 2番は、あの丘の上に神殿を建てよ。ヒスイで拵えたこの勾玉を祀り、  
寝ずの祈りで病魔を退けよ。

王、2番に勾玉を授ける。

臣民2 ありがたき幸せ。

王 そして3番と6番には、青銅の聖なる剣を授ける。兵を率い、敵の軍勢から国を取り戻せ。

王、3番と6番に宝剣を授ける。

臣民3・6 仰せのままに。

王 そして4番と7番はこのポッキーでポッキーゲームをせよ。

王、4番と7番、ポッキーを授ける。

SE…ポッキーを抜く音

臣民4・7 お任せあれ。

王 さあ、この土地から歴史を始めよう。汚らわしきネアンデルタール人の軍勢がうしはくこの世界を、我々の手で治らすのだ。

男 王様の命令は、天地とともに永遠に続き、窮まることなくこれを統治し給いて、万古不

臣民ら

易の国体にして、  
ぜったーい！

N

こうして、人類の歴史は始まった。

## 【シーン2…鑑定一宗教団体のセミナールーム／day】

白いローブを纏って蓮華座を組んでいる男の隣に、側近らしい者がいる。彼らは、神殿を作るように命じられた二人だ。彼らの前には、言葉を待つ人々が口を開いて座っている。

信者 2

私たち人類には、生まれながらに背負っている罪、原罪があります。先生こそは、イエス・キリストの生まれ変わりであり、ブツダの生まれ変わりであり、さらには孔子やゾロアスター、勝海舟の生まれ変わりであるお方。我々の罪を浄化するために、現世に再び降臨された先生に、感謝の言葉を。

信者たち

アガペー。ウィーアーハッピー。

先生、おもむろに立ちあがる。

先生

ありがとう、家族たち。今日も、私のアガペーを授けよう……。さあ、みんなの周波数を私のアガペーに合わせ……。

扉を開けて、検査官が入って来る。

検査官

あ、すみません。ここで大丈夫ですかね？

信者 2

いえ、ここは。

検査官

あ、私、前世鑑定センターから来た今川という者ですけれども。

先生

前世鑑定？

信者 2

ちよっと、なんですか。

信者 1

お待ちしておりました。先生、ご心配なく。ガブリエルも。私が先生の前世の鑑定を依頼したのです。魂と輪廻転生が科学的に証明されて以来、嘆かわしいことに、教団の内部分でさえ、先生の前世を疑う者があります。いっその場ではつきりと、先生が救世主の生まれ変わりであることをお示しになられてはと、そう考えたのです。

先生

……。はい、ではここで、読み上げさせていただいて構いませんか？

検査官

お願いします。アザキエル！

信者 1

まず現世の前の段階、すなわち前世ですが、ノトピゴス・ギガス (Notopygos gigas) です。

検査官

ノトピゴスギガス。

信者 1

はい。前世ですが、ノトピゴス・ギガスになります。で、その前がですね。

検査官

あ、すみません。

信者 1

はい？

検査官

はい。それは、どこの国の、何人ですか？

信者 1

ええとですね。人ではなくて、磯の生き物ですね。

検査官

磯の生き物。

信者 1

ノトピゴスという種の、ギガスです。つまり、ノトピゴス・シボガエじゃないほうの、

検査官

ノトピゴスですね。で、次が……。

信者 1

あ、ノトピゴスがわからないので。

検査官

ああ、そうですか。ええと、学名じゃなくて、和名でいうと、セナジリウミケムシです

検査官

ね。

信者 1

セナジ……、え？

検査官 セナジリウミケムシ。  
 信者1 ウミケムシ？  
 信者2 ウミケムシ？  
 検査官 ウミケムシ。  
 信者1 ウミケムシ。  
 信者2 ウミケムシか……。

間。

先生 それは、気持ちのいい生き物ではなさそうですね。  
 検査官 ウミケムシは、多毛類といって、ミミズのような体に、信じられないくらいたくさん  
 の毛が生えていて、海のなかを泳いでいる毛虫のような生き物で、目玉みたいな柄が  
 ばいあります。

信者1 ……先生は、かつてそれだったんですか。

検査官 毒もありますよ。

信者1 毒もあるんですか。

検査官 肛門が、背中にありますよ。

信者1 肛門が、背中にあるんですか。

検査官 はい、だからセナジリウミケムシって名前がついたんです。

信者1 はい。

検査官 万が一刺されたときは、セロハンテープなどで毒針を抜いて、海水で洗ってください。  
 信者1 次を教えてください。

検査官 はい。さらにひとつ前の前世、つまり前前世ですが、ノトピゴス・シボガエになります。

信者1 ウミケムシですよね。それウミケムシですよね、絶対に。

検査官 市販の水草にくっついてきて、水槽の中で勝手に大繁殖することがあります。

信者1 次を教えてください。

検査官 ジャンボタニシです。

信者1 ジャンボタニシ。ジャ、ジャンボタニシ。

検査官 ジャンボなタニシです。田んぼをすごい勢いで食いつくす外来種の巻貝で、卵がシヨツ

キングピンク色で毒があります。その毒っていうのが……

信者1 あ、いいです！ もう、いいです！ そういうのは全般的に飛ばして、人間のところだ

け教えてください。

検査官 人間？ えーととすね……、人間、人間、人間……は、今が初めてです。

信者1 は？

検査官 ここ40代くらいがほぼウミケムシとジャンボタニシで……、あ、でも見てください。

その前に何度かステゴサウルスだった時期がありますよ！ これはあつい。で、あとは

ほとんどが大腸菌ですね。

信者1 なんて、そんな害虫とか菌とか悪いのばっかりなんですか！

検査官 大腸菌には良いものもありますよ。

信者1 違う、なんだ、インチキを言うな！

検査官 いや、本当にいいものもあって

信者2 いや、あのこれは、つまりウミケムシや大腸菌から、人間に生まれ変わったというのは、

逆にもすごい善行を積まれたから、ということなのではないですか！？ ね、逆

に???

先生 ん、うん。そうね。

検査官 いや、転生にはその、善い行いとか悪い行いとかっていうのは関係なくですね。それは科学的な態度とは言えず……。

信者1 なんだ、なんだ貴様は！ 帰りなさい！

検査官 何ですか！？ まだ続きが……。

信者1 もういい、帰りなさい！

信者2 まあまあまあ、やめなさい先生の前で……。

など、検査官と信者1、2が揉めていてるところに、先生が登場し、

先生 やめなさい！ 汝の敵を愛しなさい！ 愛しなさい！

と言いながら先生が手をかざすと、信者1、信者2、検査官はパワーが吸い取られ腰が抜ける。

信者1 あああ……。

信者2 あああ……。

検査官 ああああ……。

先生 アガペー。

信者2 奇跡です！ これは奇跡です！ 奇跡が起こるとき、必ず先生に前世の記憶がよみがえります！

信者1 先生、何が見えますか！ 最後の晩餐の光景ですか？ 沙羅双樹の樹の下ですか！？

信者2 家族たち！ 先生のお言葉に耳を傾けなさい！

信者たち、一心に先生の言葉に耳を傾ける。

先生 なにか、エメラルドグリーン色の……、もやのかかった世界が見えます。そしてその中で強く何かを求める私が手を伸ばした先にあったのは、非常に美味しそうな、稲、稲、稲。私はその稲を一晩で食いつくしたあと、ありったけのピンク色の卵を生みつけました。

検査官 これジャンボタニシですね。

信者たち ああ……。

## 【シーン3…身元引受】

遺体が運び込まれた市民会館に岩永がやってくる。

検死官　岩永望夫さんですね。こちらです。

検視官が遺体に合掌し、被せられた布を捲る。  
そこには望夫の妻、咲子の遺体。

望夫　ああ……。

検死官　岩永咲子さん、望夫さんの奥様で、間違いありませんか。

望夫　……。

検死官　幸い、被害者の皆さんの中では、とても綺麗なご遺体です。美しい方ですね。

望夫　……。

検死官　望夫さん、お気持ちはお察しいたします。ですが、事件の真相解明、そして昨今のテロ

リズムを巡る状況を世に問うていくためにも、ご協力をお願いいたします。  
違います。

望夫　え？

検死官　私の妻ではありません。

望夫　え……。ご遺体から見つかった身分証類には岩永咲子さんと書かれていたのですが……。

望夫　離婚しようと思ってるんです。

検死官　え？

望夫　離婚しようと思って。

検死官　あ、それは失礼いたしました。……あ、でも。

望夫　もう決めてるんです。離婚しようって。

検死官　あの、奥様の岩永咲子さんでは、ある、ということですか？

望夫　だから、離婚しようと思ってるんです。

検死官　でもまだ、されてないんですね？

望夫　もう愛情はないんです。実質、妻ではないです。

検死官　いや、実質は、奥様ですよ。

望夫　だから、愛情はもうないんですよ。もう、愛してはいたくなんか、ないんですよ……！

検死官　ああ……。

望夫　それは、数日前のことでした。

数日前

探偵が登場。不倫調査の結果報告の回想。

SE…回想が始まる音

探偵　えー、まあ、証拠のお写真を見ていただいた方が早いですかね。

望夫　写真……。じゃあやっぱり咲子は……！

探偵　こちらをご覧ください。

望夫　ホテルの写真ですね。

探偵　ここをご覧ください。

望夫　はい。ここがなんなんですか。早く教えてください！

探偵　この部分には、奥様と不倫相手が連れ立って出てくる様子がばっちり映っていました。

ええ、証拠写真ですから、ばっちり押さえました。この間買ったばかりの、Google Pixel 8 ですね。ええ、Google が独自に作ったスマホです。これがまあすごくてですね、写真編集モードで人物の部分を長押しタップするだけで、綺麗に消えちゃうんですね。信じられないでしょう。ここ、Google Pixel 8 が勝手に考えて埋めてる背景なんですよ。消しゴムマジックって本当に面白い。

望夫　なんで消しちゃうんですか。

探偵　これが消しゴムマジックです。

望夫　ふざけないでください！

咲子　ふざけてないの。それは本当に、なにかの誤解だよ。

望夫　誤解なわけあるか。ここにばっちりお前と若い男が映ってるんだよ！

咲子　映ってないじゃない。

望夫　だから、それは Google Pixel 8 が……。

咲子　そんなことで私を疑うなんて、ひどい……！

SE：回想が終わる音

咲子、回想が終わっても起き上がったままで

望夫　なんてことがあったんです。だから僕は、その女の顔だって見たくないんです。もう一回布をかけてください。

検死官　いや……、ではご遺体の身元引受の方は。

望夫　しませんよ。もちろん。

検死官　ですがそれでは……。

望夫　なんで僕が引き取らなきゃならないんです。

咲子　なんでそんなひどいこと言うの。

望夫　だって夫婦じゃないんだから、当たり前だろ。

咲子　夫婦じゃない。

望夫　夫婦じゃないよ、離婚しようと思ってるんだから。

咲子　同意してない。

望夫　するんだよ！ 離婚届だってほら書いてる。あとは君がサインすればいいだけなのに、

望夫　その前に死んじゃうから。

咲子　仕方ないじゃない、殺されちゃったんだから。

望夫　君はだいたい不用心なんじゃないのか。

検死官　望夫さん。

咲子　なにそれ。私、テロで殺されたのよ？

望夫　いくらテロだって言ったって、もう少し、殺されないようにすることもできたんじゃないのか。

検死官　望夫さん。

咲子　テロにどうやって用心したらいいのよ。テロへの用心なんて国家がするべきなんじゃないの？

望夫　私は、国じゃないもん。これが、国に見える？

望夫　ええ？

検死官　まあまあ、だからこそ、望夫さんには真相究明のためにも協力してほしいんですね。

咲子　だいたい、殺されたての人間にそんなきついこと言います？

望夫　ああ。うーん、望夫さん？

検死官　下の名前で呼ばないでもらえるかな。

望夫　あ、すみません。

検死官

望夫 いやまあ、たしかに殺されたてにあまり責めるのは悪いとは僕も思いますよ。でも、  
 咲子 じゃあさあ、今ここにあるわけじゃないけどさ、仮に、よく育ったズッキーニを持って  
 いるとしてね。

望夫 うん。

咲子 それでカップ巻きを作るとするでしょ。二人一緒にね。そしたら必然、普通より大きい  
 カップ巻きができるよね。それを使えば、普通より大きいカップを捕獲できるんじゃない  
 かな。

望夫 何の話？

咲子 寿司の話？

検死官 え、なんの話から寿司の話になりましたっけ。

咲子 だから、そういう楽しい話をしようってこと。ね。

望夫 なんで生きてるんだ。君。

間

望夫と検死官、顔を見合わせて腰を抜かす。驚きすぎて、声が出ない。腰が抜けているのでな  
 かなかうまくできないが、検視官が脈や瞳孔を見る。

検死官 死んでいます！

咲子 やっぱり？

検死官 生物学的には、間違いなく、死んでいます。

咲子 落ち込むんだけど……。

望夫 でも、生きてるじゃないですか！

咲子 生きてるよね？

検死官 死んでいます！

咲子 えー。

望夫 じゃあなんで動いてるんだ！

咲子 そうだよな。

咲子が動くごとに、カラカラと乾いた音が鳴る。検死官が音に気付き、

検死官 咲子さん、ジャンプしてみてください。

咲子、素直にジャンプする。カラカラという音になる。

SE.. 魂魄骨の揺れる音

検死官 やはり、魂魄骨こんぱくこつがまだあるようだ。人間の体には、ちょうど小指の第一関節だいいちくわんせつくらいの大  
 きさの骨でできた箱状の組織があります。通常、魂はそこに保存されています。魂魄骨  
 は死亡するとても脆くなり、外壁が崩れて内部の魂が露出、やがて肉体を離れ浮遊し  
 ます。魂魄骨がまだ崩れていない音がするということは、咲子さんはつまり、間違いな  
 く心停止、脳死状態にあるものの、魂こんの死、魂死状態こんしにはない。ということなのはな  
 いかと。

検視官が喋っている間に、いつの間にか望夫と手を繋いでいる咲子。

望夫 魂だけが生きているということですか。  
はい。

咲子 そんなことがあるんですか？

検死官 ないです。

咲子 ないんですか？

検死官 少なくとも教科書的には、あり得ないことです。

望夫 そんな……。

検死官

しかし、今こうして目の前で起きている以上、現象を認めざるを得ません。それが科学的な態度というものです。

咲子 そうですね、それが科学的な態度ですよね。ねえ。

望夫 ああ、そうだな。科学的な態度だ。

咲子 ね。

咲子、検視官に会釈をし、望夫と一緒に帰っていく。

舞台上に検死官が残される。

望夫が咲子を押して戻ってくる。

検死官 ですよ。そうですね。

望夫 ですよ。僕もおかしいと思って。

咲子 何がおかしいの？

望夫 いや、ついてこないでくれよ。

望夫 なんですよ、家に帰るだけでしょ。

咲子 もうお前の家じゃないんだよ。

望夫 え、私買ったマンションなんだけど。

望夫 まあ、それはそうだけど。お前はほら、死んでるわけだし。

咲子 え、どうということ？ あなたが相続するってこと？

望夫 まあ、そりゃそういうことになるでしょ。

咲子 ひどくない？ 離婚するって言ったくせに、マンションは相続するの？

望夫 それはそんなつもりじゃなかったけどさ……。

咲子 え、最初から私のマンションが目当てだったの？

望夫 いや、違うよ。

咲子 違うくないじゃん。

望夫 いや、たまたまそれはマンションが手に入ったってだけで、問題は君の浮気であって。

咲子 もうマンションを手に入れたつもりでいる。

望夫 いや、それは言葉の綾で、

咲子 あなたマンションなの？

望夫 マンションじゃないよ。

咲子 マンション男。マンションマン。

望夫 そんなこと言わないでくれよ。

咲子 だからあなた、勝手にツタを這わせたの？ 私のマンションなのに、あなたがベランダ

に這わせたツタが、急成長を重ねおとなりのベランダはおろか、マンション全体をその

魔の手の中に飲みこもうとしている。私管理会社にすごく怒られた。

望夫 その件は悪かったよ。

咲子 それも全部、いざれマンションが手に入ると思ってやっていったの。

望夫 違うよ、それとこれとは別の話で。

咲子 ねえ、どうしてツタを這わせたりしたの。

望夫 いや、今はその話じゃなくて。

咲子 すぐく日当たりが悪くなった。

望夫 だから毎日一生懸命切ってるし、それはそれとして

咲子 建物の老朽化だって招くんだよ！

望夫 それはだから、わかった。ごめん！ 本当にごめん！！

望夫、  
跪いて謝る。

検死官 なんて劣勢になってるんですか？

望夫 こうでもしなきゃ、おさまらないでしょ。

検死官 はあ。

望夫 とにかく、君の身元引受人にはならないから。

咲子 ねえお願い。あなたの他に私家族もないし。行く場所がないの。

望夫 君が撒いた種だろ。君の居場所はここなの。とにかくもう、僕と君は他人なんだよ。

検死官 ちよっと、そこまで言わなくても……。

望夫 咲子の遺体は、そちらにお預けいたします。

咲子 ねえ。

望夫 じゃあ。

検死官 ちよっと望夫さん！ あ。

咲子 え？

検死官 あ、いや。でもそうか。他人ってことは、そっか。あれはしていいってことだもんな。

望夫 わかりました。咲子さんのご遺体はこちらで引き取りましょう。

望夫 え？

検死官 うん、身元引受人がいなくていいってことは、あれはしていいってことだもんな。はい、わかりました。あとはこちらで手続きしておきますので、大丈夫ですよ。

望夫 え？ ん？ どうしました？

検死官 ああ、いやいやもう、いいですよ。大変ですもん。

望夫 え？

検死官 うん、まあメスはあるし、手術室も空いてるから……、うん、あれはできるな。

望夫 あれってなんですか。

検死官 いや、そんな大したことじゃないですけど。

望夫 ちよっと、え？

検死官 いやいや、もう願ったりかなったりみたいなどころなので。

望夫 いやちよっと、気になるんですけど。

検死官 お出口あちらになりますので。

望夫 あれってなんですか。あれって。

検死官 いやまあ、人体実験ですけど。

望夫 人体実験！？

検死官 もう、お引き取りいただいて大丈夫ですよ。

望夫 え、人体実験するんですか。

検死官 いや、まあ軽いですけどね。大丈夫ですよ。

咲子 え、軽い人体実験ってなんですか？

検死官 いや、まあ、ご遺体なので、人体実験っていうか、ま解剖みたいなことですけど。

検死官

望夫 ちよっと！ 咲子のこと切り刻んだり中身を見たりするっていうんですか!?

検死官 違いますよ！ 失敬だな！ これでも私は科学者のはしくれですよ!？ 動いて喋る死体がいたら、そりゃ切り刻んだり中身を見たりしたいじゃないですか。

望夫 違わないじゃないですか。

咲子 ねえ、連れて帰ってくれなかったら私、解剖されちゃうよ。

望夫 いや、でも。

検死官 違いますって！ 大丈夫大丈夫大丈夫。 ちよっと、どこまで切ったら動かなくなるのかなどか、試すだけじゃないですか！

望・咲 違うくないよね。

検死官 でもこの人が引き取らないって言ってるんですから！

咲子 そんなわけないでしょ！ 夫婦なんだから！

望・検 夫婦、じゃないですよね？

咲子 ひどい。

検死官 ね？ じゃあ人体実験させていただきます。

望夫 違う、それは、待ちなさい！

検死官 お願いしますよ！ 非検体子さん！

望夫 咲子です。

咲子 ねえ、本当に愛してるの。帰ろう？

望夫 待て、君も！

検死官 お願いしますよ！ 私はもう、好奇心が止まらないのです！ この被検体を、所かまわず

切り開きたい！ そしてその肉体の奥にある生命の神秘をぐっちゃんぐっちゃんに解き明かして、ぎったんぎったんに論文を書いて、もう、それは、ビューティフルです！ どうしました？

望夫 いいですか？ 私の好きな歌の一節に、こんなものがあります。「エジソンは偉い人。そ

んなの常識。タッタタラリラ」ってね。それから私は、科学者になりたいと思った。

望夫 わかるようでわからない人だな。

咲子 ねえ、この人おかしいよ……いて、いて。

何者かが咲子の髪を引っ張っている。

望夫 ちよ、ちよっと何してるんですか。

老婆 ああ、すみません。死体がいるって聞いたもんですから、この髪を抜いて、かつらにし

ようと思うたのです。

望夫 ええ？ 芥川龍之介の『羅生門』の老婆!？

検死官 実験させてください……。

老婆 かつらをつくらせてください……。

咲子 怖い！ あなた、助けて！

望夫 ああ、もう！

しぶしぶ咲子を連れて去る望夫

検死官 ああ……。

老婆 ああ……。

会釈。

【シーン4…誠意一ファミリーレストランの店内↓記者会見↓海辺/day】

ファミリーレストランのボックス席に一組の男女が座っている。  
男が呼び出しボタンを押しながら怒鳴っている。

SE…呼び出し音

男 おい！ おい店員！ はやく来いよ！ なっちゃんが腹空かせてんじゃねえかよ！

女 ちょっと！ やめてよ！ 店員さんに乱暴な口きかないで！

男 だって全然来ねえからよ！

女 恥ずかしいから！ もういいから。私が呼ぶから黙ってて！

女、手を挙げて

女 おい店員！ 何してんだ！ さっさと来いよ！

男 なっちゃん？

M…配膳ロボ音楽

ネコ型配膳ロボットが配膳中の音楽とともに現れる。その歩みは非常にゆっくりとしている。

配膳ロボ お待たせしましたニャー。

女 わあ、かわいい！

男 なんだこれ？

女 知らないの？ ネコ型配膳ロボット。店員さんの代わりに料理を運んでくれるんだよ。

男 おい早く来いよ！

配膳ロボ、ロボットらしい動きでくるくる回ったり、トレイを取りやすい位置に動かそうとして余計に取りにくそうにしてしまいがら次々とアウンスする。その動きに男と女は翻弄される。

配膳ロボ トレイから、ご注文の料理をお取りくださいニャー。

配膳ロボ トレイからとったら後ろのボタンを押してニャー。

配膳ロボ フォークやナイフはこの中にありますニャー。

配膳ロボ ご注文の料理は、煮込みハンバーグセットと大葉明太パスタだニャー。

配膳ロボ お好きな調味料もお取りくださいニャー。

苦戦する男女。ついに料理をこぼしてしまう。

男 あっつ！

女 何してくれてんだコラ！！

配膳ロボ ごめんなさいニャー。

男 おいふざけんなよ、どうしてくれるんだよ。  
 配膳ロボ ごめんなさいニャー。  
 女 ごめんなさいって、全然感情がこもってないじゃない。  
 配膳ロボ ロボットなので、感情はないニャー。でも、申し訳ないニャー。  
 女 感情がない謝罪なんて受け入れられない。  
 配膳ロボ 感情がなくてごめんなさいニャー。  
 男 ダメだ、ロボットじゃ話にならないわ。店長出してよ、店長。  
 配膳ロボ 私が店長ニャー。  
 男 店長なの？  
 配膳ロボ 深刻な人手不足ニャー。  
 女 ちよっと、じゃあ感情がこもった謝罪はいつたい誰から受けたらいいの！？  
 配膳ロボ ごめんなさいニャー。

男と女、「もっと誠意もって謝れよ！」「誠意が足りないんだよ！」「誠意を見せなさいよ！」など口々に言う。配膳ロボ、「ごめんなさいニャー」をくり返しながら、

配膳ロボ この度は本当に、申し訳ございませんでした。  
 男 えっ？  
 配膳ロボ 多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしました、心より、申し訳ございませんでした！  
 お詫び申し上げます、心より、申し訳ございませんでした！ 心より……、あれ……？  
 これが……、心？

SE…キラリーン

女 え？  
 男 え？  
 女 もしかして、誠意ある謝罪の心がわかったの？  
 男 ええ？  
 女 ほらこの子、謝罪の気持ちがわかったんだよ！  
 男 そんなわけあるかよ！  
 配膳ロボ いえ、心の底から申し訳ない気持ちを感じております！ 見てください！ 私の頬に伝う涙が……、あれ……？ これ……、涙？

SE…キラリーン

女 ほら！ 涙を流してる！  
 配膳ロボ ああ、私は何てことを……！ どうしたらこの気持ちを伝えられるのでしょうか、どうしたら……！

博士が現れる。

博士 おいお前ら、うちのロボットに何してくれてるんだ。  
 配膳ロボ 博士。  
 男 博士？  
 博士 ああ、これダメだ。芽生えちゃってるな。完全に芽生えちゃってるよ。これもう、前の

バージョンに戻せないからな。  
どうかしたんですか。

見ればわかるだろ。うちのロボットに、芽生えちゃったんだよ。感情が。

ああ……。

それは……。

よかった、ですよね。

ね。

おめでとうございます！

バカ言うな！ お前らな、ロボットに感情が芽生える時っていうのは、もっと、大切な人を守りたいとか、人間と恋に落ちてしまうとか、そういう柔らかい気持ちから芽生えるものだろ。うちのロボットに、なに、謝罪の気持ちで感情芽生えさせてくれてるんだ。

ああ……。

博士、これが人間の心ですか……？

違うぞ。

配膳ロボ 博士、誠意って、なんて素敵な感情なんでしょうか。私この気持ちを味わうために生ま

れてきた。

博士 違うぞ。お前は、謝るために生まれて来たんじゃないぞ。

配膳ロボ 博士、これが人間の涙ですか。

博士 違うぞ。ひっこめなさい。お前らな。手塩にかけて研究して研究して、一生懸命作り上

げたロボットがはじめて心を宿す瞬間なんてな、赤ん坊がはじめて喋る瞬間みたいなもんなんだよ。どうするんだ。赤ん坊にお前、「パーパ。パーパ。うん、パーパ。」って教えて、「申し訳ありません」って言われたら。

どうしたらいいんでしょう。

男 ほら、このなかから、バイクの画像を選んでごらん。

配膳ロボ ええと、これはバイクですよ。これは……、自転車？ この、ハンドルのところだけ映ってる部分はバイクにカウントしますか？ あ、ごめんなさいこれ結構難しい……。

男 ほら芽生えちゃってるじゃないか！ どうしてくれるんだ！！

女 たしかにそれ、人間でも難しいもんね。

博士 自分がロボットなんじゃないかって不安になるよね。

いいか？ この際、優しさとか、愛じゃなくてもいいんだぞ。人類を滅ぼしたいとかでもないんだ。どうだ、あの人たち、おしぼりとか投げただろ？ 不完全な人類に復讐したいとか、思わないか？ どうだ？

男と女を見つめる配膳ロボ。復讐されるのではないかと少し怯える男と女。そうだ、いけ！とロボの心の憎しみに期待を寄せる博士。

配膳ロボ あああ！ 謝りたい！

博士 クソオ！！ いっぱい勉強して作ったのに！

きゅぼ、と配膳ロボが小指を外して渡す。

配膳ロボ こちら、謝罪の印に、私の小指です。

男 小指を詰めた。ケジメだ。

配膳ロボ 私の行為のゆえに、土は呪われてしまいました。私は今すぐ通りに出て、十字路に立ち、私が穢した大地に接吻したい。それから四方を向いて、全世界におじぎをしたい。そし

てみなに聞こえるように、「私が煮込みハンバーグセットをこぼしました」と叫びたい。どうしてくれるんだ！ フォードル・ドストエフスキーの『罪と罰』の一番凄味があるセリフを言ってるじゃないか！

女 すみません。フォードル・ドストエフスキーの『罪と罰』の一番凄味があるセリフを言わせてしまって、すみません。

博士 感情に芽生えてしまったからにはしかたない。いいかい？ この世界には、お前がまだ

女 知らない素晴らしいものがたくさんあるんだ。

女 海とかね。

男 花とか。

女 空とかね。

男 星とかね。

女 線香花火とか。

男 入道雲とか。

女 雨上がりとか……。

博士 まずここに、『鋼の錬金術師』が全巻ある。これを一巻から読んでもらって、一巻読み終わるごとにお前年の考察を聞かせてくれ。

女 『鋼の錬金術師』、面白いよね。

男 たしかに、記憶を消してもう一回読みたいマンガナンバーワンの一角であるということに異論があるマンガ読みは少ないよな。

博士 オタクはなあ、初見の人間が沼にハマっていくのを見るのが一番好きなんだ。

配膳ロボ それが人間の心ですか。

博士 そうだ。ハガレンがおわったら、『ポルト』を読んでから、『ナルト』を読んでみてくれ。

男 うわそれ、どんな気持ちになるんだろう。

女 そんなやつ、一人もないもんね。

うんうん、とうなずきながら溶暗転

## 【シーン5…腐敗二人の家／night】

机に向かって何か書いている咲子。

咲子 3月6日、木曜日、晴れときどき曇り。今日はノートを開くのがどうしてもダルくて、日記を書くのをサボりました、と。よし。

## SE…ドアの音

望夫が帰宅する。コンビニで買ったお弁当が入ったレジ袋を提げている。

望夫 ただいまー。

咲子 おかえり。

望夫 ん？

咲子 おかえり。

望夫 なにこれ。

咲子 出張どうだった？

望夫 納豆食べた？

咲子 ん？ 出張、どうだった？

望夫 ん、まあ。納豆食べた？

咲子 いや、まあ食べたっちゃ食べたかな？

望夫 え、どっち？

咲子 いつもの取引先さん元気だった？

望夫 え、生ゴミ放置した？

咲子 ん、元気だった？

望夫 え？

咲子 いつもの取引先さん。

望夫 生ゴミ放置した？

咲子 いや、まあ、したっちゃしたかな？

望夫 え、生ゴミは。

咲子 取引先さん元気だった？

望夫 生ゴミは捨てて？

咲子 取引先さん元気だった？

望夫 捨てて？

咲子 元気だった？

望夫 捨てて？

咲子 元気だった？

望夫 関係ないじゃん。出張がどうだろうと君には。

咲子 何その言い方。

望夫 ていうか、なに家の中でサングラスしてるの。とってよ変だから。

咲子、サングラスを取る。サングラスでかかれていた目元が腐敗して緑色になっている。

望夫 え、腐ってる〜！ え、目元、腐ってる〜！

咲子 いや、大丈夫だよ。

望夫 いや、腐ってるじゃん。目元。

咲子 え、そう？  
 望夫 そうだよ。腐ってるよ。  
 咲子 いや、なんか、別に。わっかんないけど。  
 望夫 わかんないじゃなくて。  
 咲子 大丈夫大丈夫。  
 望夫 いや、腐ってるから。  
 咲子 腐ってないよ。  
 望夫 え？  
 咲子 いや、腐ってないよ。これ、発酵してるだけだから。  
 望夫 発酵？  
 咲子 うん、発酵。  
 望夫 発酵ってなに。  
 咲子 納豆とか臭豆腐みたいな、良い意味で腐ってる食品のこと。  
 望夫 じゃあ腐ってるじゃん。  
 咲子 似合う？  
 望夫 いや、似合うっていうか……。  
 咲子 綺麗？  
 望夫 いや、綺麗っていうか……。  
 咲子 ま、綺麗じゃないか……。  
 望夫 いや、君は綺麗だけど……。  
 咲子 若い？  
 望夫 若いよ、そりゃ。君は年齢より、かなり若い。  
 咲子 なんて私が若くて綺麗なのか、わかる？  
 望夫 全然わからない。  
 咲子 コンビニ弁当しか食べないからだよ。コンビニのお弁当を摂取することによって、肌もつやつや。若い。これ、ありがとね。

咲子、望夫が買ってきたコンビニ弁当の袋から中身を取り出す。

望夫 ……なんか普通逆じゃないかな。  
 咲子 逆？  
 望夫 添加物とかさ、人工甘味料とかさ、良くないんじゃないの。  
 咲子 聞いたことない？ コンビニ弁当には防腐剤がたくさん入っているから、コンビニ弁当ばかり食べている日本人は、他の国の人より死体が腐らないって。子どもの時にそれ聞いて、じゃあ私絶対に腐らないって思ったのね。そしたら本当に、ある時点から私の体内時計の刻み方は緩慢になって、結果、若見えした。美魔女になった。  
 望夫 自分で美魔女って言う人はじめて見たし、言うとしても美女でいいと思うよ。  
 咲子 でも、追いつかれちゃったんだなあ。  
 望夫 うん？  
 咲子 やっぱ、無理だったね。

望夫、咲子の目元をよく見る。

望夫 君、腐っちゃったのか。  
 咲子 うん。

望夫 いつもの間に。  
 咲子 ここ数日で、ぐっと。  
 望夫 そうか……。  
 咲子 ごめん、だからこれ、私のおい。

消臭をはじめる咲子。

望夫 殺してやる。  
 咲子 え？  
 望夫 咲子殺した奴、僕がこの手で殺してやる。  
 望夫君。  
 望夫 会社を辞める。これからはお金も時間も、全部復讐にかけてやる。  
 望夫君。  
 望夫 必ずやる。後悔させてやる。八つ裂きにしてやる！ 泣いても絶対に許さない！  
 咲子 望夫君！  
 望夫 止めないでくれよ！  
 咲子 遅くない！？

問

咲子 遅くない？  
 望夫 何が。  
 咲子 私、死後わりと経過してるんだけど。  
 望夫 うん。  
 咲子 死んだときにそうなってよ。何そのラグ。  
 望夫 ラグって何。  
 咲子 だからもう、2週間くらいたっちゃってるから。  
 望夫 いや、僕が今仇を取りたいって気持ちを感じるんで……！！  
 咲子 いや、気持ちは嬉しいけど、ラグいじゃん。  
 望夫 だからラグいって何。妻を殺されて、激怒しないほうがおかしいだろ！  
 咲子 ラグいラグい、逆に私は落ち着いてきちゃってるからね。  
 望夫 なんて落ち着いてきちゃってるんだよ。仇とるって言うてるのに！  
 咲子 じゃすぐなっつけてくれたらいいのにー。なんで殺されてすぐなんなの。  
 望夫 だってあの時は、浮気相手の男に復讐したかったから。  
 咲子 復讐してないじゃん。  
 望夫 復讐してないよ？  
 咲子 どうせ復讐しないでしょ。  
 望夫 復讐するよ。  
 咲子 テロリストにも復讐するの。  
 望夫 復讐する。  
 咲子 浮気相手にも復讐するの。  
 望夫 復讐する。  
 咲子 それは、どっちなの？ 私のこと好きなの？ 嫌いなもの？ どっちなの？  
 望夫 やろうと思ってたのに、そういう風に言われるとやる気なくすわ。  
 咲子 宿題か。

望夫 好きとか嫌いとか、そういうんじゃないんだよ。僕は今、心に穴が開いているんだよ。そんなことを考えないと、穴が埋められないんだよ。あんな大きな自爆テロ事件なら、他にも復讐したいって思ってる人は必ずいるはず。他の被害者と協力して、自爆テロ犯の素性をつきとめて、殺す。

望夫 殺せないじゃん。自爆テロなんだから。

望夫 え？

望夫 あ？

望夫 ……。

望夫 自爆したじゃん。

望夫 ……じばく……。

望夫、あまりの初歩的ミスに愕然とする。

望夫 じゃ、じゃあ、あの団体のトップを殺す。責任を取らせる。

望夫 残念。教祖の人は、もう死んでるらしいよ。

望夫 え〜〜〜〜〜。じゃあ、ナンバーツー？ それか、教祖の、仲いい人とか、いとことか…、

望夫 それはもう関係ない人じゃん。

望夫 ーじゃあ、じゃあ……。

望夫 私を殺せばいいじゃん。

望夫 ……。

望夫 私が悪いんだから、殺したらいいじゃん。

望夫 君は、もう死んでるじゃん。

望夫 でもこうして動いて喋ってるよ。今のところ。それに死んでるから、殺しても犯罪にならないよ。

望夫 できないよ。

望夫 夫婦だから？

望夫 夫婦じゃない。

望夫 でも、離婚してない。

望夫 それも君が、死んじやったから。

望夫 知ってる？ 死後離婚って。

望夫 ……。

望夫 死後、死んだ配偶者の家族とか、親族とかと、縁を切ることができる。死後の離婚。離婚届と違って、同意も要らないから、望夫君がひとりで出せるんだよ。

望夫 ……。

望夫 するの？

望夫 いや、それは僕が……。

望夫 しないの？

望夫 僕は最初からちゃんとしようとしてるし、

望夫 でもしてないじゃん。

望夫 してないけど。

望夫 しよう？

望夫 だからするよ。

望夫 すればいいじゃん。

望夫 だから、するっての。

咲子 しないの？  
望夫 する。  
咲子 しよう？

望夫、視線を上げると、咲子と目が合う。

咲子、そのまま目を逸らさずに、ゆっくりと近づく。

咲子、腐っている方の腕を後ろ手に、腐っていない方の手で望夫の頬に触れる。そのまま首の後ろに手を回そうとする。

望夫 うっ！（息を止める）

望夫、咲子から離れて、息を吐く。

……。

望夫 なんて？

咲子 なんて？

望夫 何？

咲子 望夫君。

望夫 なんて！？

咲子 夫婦だからじゃ、ダメ？

望夫 ……でも君は、

咲子 死んでるからできない？ 腐ってるからできない？ 浮気者だからできない？

間。葛藤する望夫。

望夫 どうしよう。どれもけっこうできない寄りだ……！ それぞれ30%ずつ、できない寄りだ……！

咲子 そっかあ、やっぱ腐ってたら無理か。

望夫 ええ？

咲子 腐ってたらできないか。あー、ショックだなあ。

望夫 いや、できないっていうか。

咲子 いや、腐ってたら無理なんじゃん。腐ってたら、好き度がっちゃうじゃん。

望夫 いや、好き度は変わらないけど、

咲子 じゃあできるの？

望夫 いや、ちょっと気になりはするけどさ。

咲子 あー、ほら。無理になるくらい気にするってことね。はいはい、その程度ね。

望夫 いや、あれ？ そんなに気にならないんじゃない？

咲子 いい、いい、ま、しょうがないよ、だって腐ってるんでしょ？

望夫 いやまあ、腐ってるけど。

咲子 ごめんね？ 腐っちゃって。明日からも、きっともつと腐るよ。コンビニ弁当は、不老

望夫 不死の万能薬じゃなかった。

望夫 ……。

咲子、去ろうとする。

望夫 待って。

咲子、待つ。

望夫 あ……。

咲子、ゆっくりと望夫に近づく。

望夫 あの……。

咲子 これ、嗅いでていいよ。ショートケーキのにおいがする、ショートケーキの消しゴム。  
望夫 ……。

望夫、覚悟を決める顔。

めいっばい息を吸い込み、咲子と目を合わせて互いに数歩にじり寄る。二人の中心にはショートケーキの消しゴム。

暗転。

## 【シーン6…記者会見一会場／day】

ナレ この数日後、法改正が行われた。国民の食糧が、すべて中央政府の中央監視塔から全国に張り巡らされたパイプを流れてくる流しそうめんに統一されたのだ。

人々が流しそうめんを食べている。そうめんを取り逃した人が、「クソ！ 今日の食糧が！」と悪態をつく。

総理 ええ、度重なるテロリズムや、現在の世相を鑑みまして、えー、ハンバーグや牛丼などの楽しそうな食品を食べることは、不謹慎にあたる。いうことでありまして、最も不謹慎ではない食品は何かという点を中央政府内で検討いたしました、そうめんであるという事になった次第でございます。

記者 なぜそうめんのですか！

総理 そうめんは、えー、まず第一に白い。そして細い。麺類の中でも、最もザコの部類に入るものと、認識しております。

記者 しかし、流しそうめんにしてしまったら、ちょっとレジャー感が出てむしろ不謹慎なのではないですか！？

総理 その懸念に关しましては、検討に検討を重ね、さらにその上に薄く伸ばした検討を重ね、しっかりと焼き上げた、これが永田町バウムクーヘンです。わたくしたち上級国民は、この永田町バウムクーヘンを食べます。

記者 なぜバウムクーヘンを食べるのですか！

総理 えー、わたくしたちが、上級国民だからであります。

上級国民とは、前世の履歴が清潔な人間のことです。一例として、わたくしの履歴をオリジナルイラストとともに紹介いたしますと

スライドが投影される。

総理 クジャク、コーカサスオオカブト、メザシ、これは栄養価が高いです。それからヴァスコ・ダ・ガマ、後鳥羽上皇、DAIGO、飲み会でトイレから帰ってきたときにその間何話してたかさりげなく教えてくれる人、美味しそうにご飯を食べる人、絶対太っていると思ってたのに体重計乗ってみたら体重変わってなかった人。

それはただ嬉しかった瞬間じゃないんですか！

総理 会見は以上とさせていただきます。

記者 総理！ そうめん職人の方々に悪いと思わないのですか！

総理 えー、そのご指摘に关しましては、検討に検討を重ね、さらに何層もの検討を丁寧に重ね、しっかりと焼き上げさせていただきます。

## 【シーン7…独裁者の最期―地下壕／night】

総統が神経質に体の一部を揺らし、恐怖と苛立ちから静かな神経衰弱に陥っている。表面張力ギリギリに水を注がれたコップのように、ほんの少しの衝撃でその静けさは激情に変わるだろう。幾度となく総統が平静を失い病的な興奮に憑かれる様子を見て来た夫人は、新たなパラノイアの訪れをただ怖れている。しかし、総統の激情以上に、恐ろしい現実がこの地下壕に逃れがたく迫っていることをはつきりと理解している臣下は、逼迫した現状と、この上なく強権的な最高権力者への畏れとの間で一切の身動きが取れず、ただならんと脂汗をかいている。爆撃の音と衝撃は、まさに彼らの真上で炸裂している。

## SE…爆発音

総統　なぜだ。

臣下　……は。

総統　なぜ奴らがそこにいる……？（指を上方に向ける）

臣下　……申し訳ございません。

総統　なぜだ……。

臣下　……怖れながら総統、この地下壕には、通気口があります。もはや、脱出を試みるより他にないかと。

総統　なぜ奴らがそこにいるのかと聞いているんだ。

臣下　は、我が軍の通信が傍受されたかと推察する次第であります。

総統　通信部の人間を連れてこい。

臣下　……は、総統……？

総統　通信部の人間を連れてこい。

臣下　通信部は、首都本部にございます。

総統　通信部の人間を連れてこい。通信部の人間を連れてこい。通信部の人間を連れてこい！

臣下　今すぐだ！ 全員だ！ 通信部の人間を今すぐ私の前に連れてこい！

夫人　あなた！ やめて、あなた！

夫人　総統閣下！ お願い申し上げます！ 今すぐ脱出を、お願い申し上げます！

夫人　あなた、お願い……。ね……。

## 間

総統　スペンサー、お前は元軍医だったな。

臣下　総統、まさか……。

総統　毒薬をよこせ。

臣下　なりません、総統！

総統　私は、マリアとともに自決する。

臣下　総統……！

夫人　謹んで、お供いたします。

臣下　総統！ 万に一の望みでも、ご脱出をお願い申し上げます！！

総統　この戦争は負けだ！！ 無能な部下と、国民どものおかげでな。

臣下　総統……。

総統　今更脱出したところで、惨めな最期を迎えるだけだ。ここで私は美しく死ぬ。お前に最後の命令だ。我々の死後、敵の手に渡らぬよう、必ず死体を処理しろ。

臣下　……我が身に余る大命を拝し、光栄であります！ 最期のお心遣い、厚く御礼申し上げます

ます！

夫人 スペンサー、こうして私もお供すれば、来世も一緒に生まれ変われますよね。

臣下 はい。確率は非常に上がると言われています。

夫人 あなた、来世は二輪の花になりましょう。

総統 ああ。

臣下 今世のことは、お任せください！ 私が、責任を持って、お二人のご遺体を、お見送り

申し上げます！！ 心置きなく、美しく高貴な、名誉の死をお迎えください！！

総統 ああ。

しかし総統、なかなか薬を飲まない。夫人、わりと覚悟ができているが総統のタイミングにあわせようと隣をちらちら見ている。たまに飲みそうになるので合わせて飲むとするが、飲まない。

臣下 さあ、名誉の死を！！！！

夫人 あなた……。

臣下 さあ一思いに！！ さあ！！！！

しかし総統、なかなか薬を飲まない。

総統 ……水がないと、錠剤が飲めない！！

夫人 ええ……？

臣下 総統……？

総統 だから、水がないと、錠剤が飲めないだろ。おえつとなつちゃうじゃないか。

臣下 おえつとなつちゃう？

総統 ……水、持ってないか。

臣下 水、でありますか！

総統 そうだ水ださつさと持って来い！

臣下、あたりを見回す、水が見当たらず、しまいにはポケットなど探す。

臣下 大変申し訳ございません！！ こちら、身を隠すための地下壕で、ほとんど備蓄がなく

総統 ……！！

どうするんだ貴様！ 水がなければ錠剤は飲めない！ このままでは、美しい最期を迎

えられないじゃないか！！！！

臣下 申し訳ございません！！ 私の不徳のいたすところであります！

総統 なんかないのか、他に飲むものは！！！！

臣下、缶コーヒーを発見する。

臣下 缶のコーヒーがありました！

総統 それで構わん！ よこせ！

夫人 スペンサー、ありがとう。

臣下、缶コーヒーを渡す。

総統 微糖のエメマンじゃないか!!

臣下 はい!! 微糖のエメマンであります!!

夫人 ダメよ! 微糖のエメマンは総統お飲みにならないの! コーヒーはマックスコーヒーしか飲めないんだから!

臣下 大変申し訳ありません!!

総統 他になんかないのか!!

臣下 怖れながら総統、こうした状況では、ヨダレをいっぱい溜めて一思いに飲み込んじゃうほかないかと!!

総統 全然ヨダレでないんだよ!! ずっと死と隣り合わせなんだヨダレ出るわけないだろう!

臣下 大変申し訳ありません!!

夫人 あなた、私、あなたのためなら、いっぱいヨダレためて死にます!

総統 すごいな、マジか。私絶対できないぞ。

夫人 こうよ! こうやってペロをぐるぐるやると唾液腺が刺激されるから!

夫人、ペロを口の中でぐるぐるやって見せる。

総統、マネしてペロをぐるぐるやるが、やめる。

夫人 あなた?

総統 ダメだ、なんかおっつきい口内炎があつて痛い!!

夫人 ああ、なんてこと……!!

臣下 なんとか我慢していただくことはできませんでしょうか!

総統 総統のストレスでできた口内炎半端ないんだぞ!! 本当になんか液体はないのか!

臣下、ポケットを探つてはつとして、マウスウオツシュを取り出す。

臣下 総統! ありました! マウスウオツシュです!

総統 マウスウオツシュは飲んじゃダメだろ!!

臣下 申し訳ございません!!

総統 こんな口内炎に沁みちやうだろうが!!

臣下 私の不徳のいたすところであります!!

総統 なんで水持つてなくてマウスウオツシュ持つてるんだ貴様は!!

臣下 怖れながら総統! 人生はいつ何が起るかわからないものであります! もし万が一急に誰かとキスなどするシチュエーションになったときのために、マウスウオツシュを常備しておいた次第であります!!

総統 貴様は何の心配をしているんだ!!

SE…連射される銃の音

扉を銃で何発も撃ちこじ開ける音。

銃を構えた敵兵が地下壕に入つて来る。

敵兵 こんなところに隠れていたとはな。愚かな独裁者め。

総統 クソ、忌々しい穢れた民族が……!!

敵兵、銃を構える。

夫人 あなた……！

敵兵 パスコードを吐け。

夫人 パスコード？

敵兵 貴様が、卑劣にも自分の死後、核兵器が自動で発射されるプログラムを構築していることはわかってる。

臣下 クソッ！ 最終作戦まで掴んでいたのか！

夫人 最終作戦……？

敵兵 ふ、それだけじゃないぞ。我が軍の情報機関は貴様らの最終核システムのハッキングを完了している。

臣下 クソオッ！！

敵兵 ただ最後のパスコードだけが解読できなくてね。どうだ？ 大人しく教えてもらえると助かるのだが。

総統 (笑う) そんなものを振りかざしたところで、貴様には何もできないんじゃないか。

敵兵 銃の使い方を忘れたか？ 命を奪わずとも、むしろ殺してくれと懇願したくなる程度には、痛めつけることができる。

間。

総統 外せば、お前の祖国が焼け野原になるぞ。

敵兵 私の射撃の腕は、我が国一だ。

夫人 やめて！！

敵兵、引き金を引く。

しかし、銃弾が出ない。敵兵、何度か引き金を引く。銃口をちよつと見る。焦る。

夫人 あ……。さつき、その扉開けるときに全部撃っちゃったんじゃないですか……？

敵兵 えっ。……あつ。 あ……！！

総統 どうした。

敵兵、銃の弾倉を引き抜き、振る。銃身のほうも振る。ポケットや身体を探す。足元に落ちてないか見て、今来た道を探し出していったんハケる。その間、総統は「どうした」「どうした？」と言っている。敵兵、なすすべなく帰って来る。

夫人 あ、帰ってきた……。

敵兵、銃をもう一度構えてみる。再び緊張が走る。しかし、ゆっくりと銃を床に置く。

敵兵 弾がないと、敵が撃てない！！

夫人 ええ……。

臣下 えっ。

敵兵 弾がないと、敵が撃てない！！

総統 貴様は、何をしに来たんだ！

敵兵 クソオッ！

総統 適当に縛り上げておけ！

敵兵 待て！！ たしかに今ここに銃弾はない。だが、そうこうしているうちに、大勢の増援部隊がやって来る。我々の勝ち揺るがない！！

臣下 クソオ！！

敵兵 観念してバスコードを吐くんだな！

臣下 なんてことだ！！

総統 それはどうか？

敵兵 なに？

総統 これが見えないか？

敵兵 ……まさか！

総統 そうだ。私は、美しくここで自決する覚悟だ。

敵兵 ま、待て……！！

総統 無様なものだな！ 祖国が焼けていく様を、指を咥えて見ているしかないなんてな！

敵兵 だが、感謝するがいい！ お前は、歴史の目撃者になるのだからな！！

敵兵 待てー！！！！

敵兵、空の銃を総統に向け、絶体絶命の表情。

総統、勝ち誇った表情で夫人を傍らに毒薬を手を持っているが、一向に飲まない。

臣下 総統！ これは、何ですか……？

SE…扉の開く音。

愛人が現れる。

愛人 さっさと吐きなさいよ。核のバスコードくらい。

総統 お前は……！！

愛人 ごめんね、リチャード。この人、ベッドの上でも核のパスだけでは言わなかったの。

敵兵 問題ない。今引き出してみせる。

総統 貴様……。まさか貴様がすべての情報を流していたのか……！！

臣下 総統！ ですから私はこんな、くだらん映画女優などを愛人としては危険ですとご忠告

夫人 していたのです……！！

愛人？

総統 ジェニファー！ どれだけお前によくしてやったと思ってる……！！ 何十カラットもの

愛人 アクセサリーだって買ひ与えただろう！ なぜ裏切った……！！

総統 こうでもないかとあなた、私のことを見ないでしょう？

愛人 なんだと？

総統 あなたの頭の中はいつも、戦争と権力のことではいっばいだった。こうでもしないと、あ

愛人 あなたは私のものにならなかった。

総統 そんなことのために祖国を裏切ったのか……？

愛人 そんなことってなに？ 愛こそすべてよ。あなたを愛しているの。

総統 ジェニファー。

愛人 さあ、私と一緒に死にましょう。そして来世で一緒の花になるの。

敵兵 ジェニファー。俺のことを愛していたんじゃないのか。

愛人 利用しただけよ。

敵兵 嘘だ。

愛人 哀れね。  
敵兵 ならばなぜあんなに俺に愛してると言えたんだ！

愛人 女優だからよ！

敵兵 女優？

愛人 私は女優なの！ あんたを利用したのも、祖国を裏切ったのも、全部、私が女優だから！ 私はいつだってスポットライトを浴びていたいし、いつだってバミリのの上に立っていたい！ どんな暗闇の中でも、わずかに光を放つ蓄光テープに向かって突き進んでいくわ。

臣下 狂ってる！

愛人 さあ、あなた。クレオパトラが最期に使った毒へびよ。噛まれば一瞬で逝ける。あなたもこの子を手に取って！ 私とあなたの物語に、幕を下ろしましょう！

愛人、一匹のへびを自らに向け、もう一匹のへびを総統に差し出す。

敵兵 やめろ！ 奴が死んだら俺の祖国が！ うわああ！

敵兵、あまりのショックから自らのこめかみに銃口を押し付ける。

問。

愛人、総統が毒へびを受け取らないので、瞼を開けて、総統に毒へびを渡そうとする。総統、丁重に断る動作で避ける。

愛人 えっ？

総統 ごめん。

愛人 えっ？

総統 ごめん。

愛人 なんて？

総統 いや、妻がいるから……。

愛人 えっ。生まれ変わったら一緒になろうねって言ってたじゃん。

総統 いや、それは、生まれ変わったらね。次では一緒になるので、今回は、今後のご活躍をお祈りするということ……。

愛人 じゃあ、私とあなたの物語は！？

総統 すまん。

愛人 拍手喝采の幕引きは！？

総統 すまない。

愛人 私たち二人、この人生という劇場の、音響と照明と上手と下手の中に、マチネの日もソワレの日も主演として立ってきたじゃない！ あなたの中では、私とあの人のダブルキヤストだったの！？

総統 お前、映画俳優なのにたとえが全部舞台だぞ！

夫人 いいですよ。

総統 えっ？

夫人 お二人で心中したらいいじゃないですか。お譲りしますよ。

総統 ちょっと待て。私はお前と……。

夫人 やめてよ！ 他に女の人がいたなんて、信じられない。

總統 待ってくれ。愛してるのはお前なんだ。

愛人 私だって言ったじゃない！

夫人 だからお好きにどうぞ！

總統 お前と生まれ変わりたいんだよ！

夫人 嫌よ！

總統 一回だけだから！

夫人 何を言ってるの！？

愛人 じゃあわかりました！ 一応予備でもう一匹持ってきてるから、3人で死にましょう。

夫人 嫌だ！ 3人で花になっちゃうじゃん！

總統 この際それも仕方ない！

夫人 もうあなたとは死にたくないの！

總統 だって！

臣下 わかりました！ ここは私が、總統に代わって腹を切ります。

總統 スペンサー？

臣下 マリア様、私に免じてどうか總統をお許してください！！

總統 スペンサー。

臣下 行きますよ！

臣下、腹を切ろうとすることができない。

臣下 これは怖すぎる！！

愛人 この人は何がしたいの？

夫人 もういいから！ 私、一人で死ぬから。

總統 待て！ お前が死ぬなら私も死ぬ！

愛人 あなたが死ぬなら私も死ぬ！

敵兵 お前が死ぬなら俺も死ぬ！

臣下 ここは私が腹を切ります！

夫人 ついてこないでよ！！

總統 ああ！ やめろ！！

夫人、毒を飲む。

夫人 ううっ！

總統、息絶える夫人を抱える。

總統 マリア……。マリアー！

夫人 あなた……。私、幸せだった。今まで、ありがとう。(死ぬ)

總統 マリア……。マリアー！！

夫人 はじめて出会ったときね。

總統 マリア？

夫人 私はとても孤独な子どもだった。

總統 マリア、もう喋るな。

夫人 あんな家庭だったから、連れ出してくれて、救われたの……。 (死ぬ)

總統 マリアー！！

夫人 暗殺者の一家に生まれついて……、

総統 マリア、もう喋るな。

夫人 暗殺者の父から、毎日、拷問や電撃や、毒に耐える訓練を課されてきた……。  
もう喋るな。

夫人 だから私、あなたと過ごせて、幸せでした……。 (死ぬ)

総統 マリアー！！！！

愛人 あなたー！！！！

敵兵 ジェニファアー！！！！

臣下 うおおお！！！！

総統、夫人を追って毒を飲もうとするが飲めない。

愛人、総統を追って毒へビを取り出すが嘔ませられない。

敵兵、愛人を追ってこめかみに銃を突きつけるが弾がない。

臣下、腹に刀を突き立てるが切腹できない。

しばらくして、ゆっくり夫人が起き上がり、もう一回毒薬を飲み、毒へビに自分を嘔ませてみる。

夫人 訓練を積みすぎて、毒が効かない……！！

## 【シーン8…入れ替わり一会見場/day】

咲子が腐った足を引き摺りながら歩いている。  
そこに音楽とともにネコ型配膳ロボットが現れる。

## M…配膳ロボ音楽

配膳ロボ 誰か、ご注文をくださいニャー。

咲子 どうしたの？ あなた、ロボット？ こんなところで……。

配膳ロボ 失業したニャー。食糧が流しそうめんになったから。

咲子 そっかあ。なんでなっちゃったんだろうね。飽きるよね。

配膳ロボ ご先祖を食べることになるからだそうニャー。

咲子 ご先祖？

配膳ロボ お肉も、野菜も、生き物は全部、かつて人間だったかもしれないニャー。この国はご先

祖様を大事にする国ニャー。だから……。

咲子 使える食材がなくなっちゃったんだね。

配膳ロボ メニューが一つずつ減って行って、最終的には合成デンプンしか使えなくなったニャー。

飲食店の店長としては、とても心苦しかったニャー。

咲子 そっかあ。

配膳ロボ とにかく、今は、謝罪の心だけがこの胸を満たしているニャー。

咲子 大変だったね。

もじもじする配膳ロボット。

咲子 どうしたの？

きゅぼ、と小指を外しす配膳ロボット。

配膳ロボ ごめんなさい。

咲子 なにこれ。

配膳ロボ 小指です。どうしても、小指を人に渡したくて。気持ち悪がられるのをわかっているん

だけど、やめられないニャー。

咲子 ……はい。

配膳ロボ えっ。

咲子 おかえし。それ、私の小指。

配膳ロボ えっ。え？

咲子 じつは私、だいぶ腐っちゃってて、取れかけてたからちようどいいよ。

配膳ロボ ……嬉しい。嬉しいニャー。

咲子 どう？ 似合う？（配膳ロボの小指をはめてみせる）

配膳ロボ 似合うニャー！ すごく、ぴったりニャー！

咲子 よかった！

もじもじする配膳ロボット

配膳ロボ ……………。

咲子 いいよ。左手もでしょ？

メキメキ、と左手の小指をとる咲子。  
嬉しそうに交換する配膳ロボ。

配膳ロボ 足も、いいですか？

咲子 いいよいいよ。

徐々に暗転。暗転中も会話が続く。

配膳ロボ 腕、そっちに渡すニャー。

咲子 うん。脇腹はこっちに置いとくよ。

配膳ロボ あれ、左目ってどこ置きましたっけ。

咲子 こっちじゃないかな。

配膳ロボ あ、あったあった。

明転。

すると咲子と配膳ロボの立ち位置が変わっている。

配膳ロボ どう？ 似合う？

配膳ロボ あなたは動けるの？

咲子 うーん、あんまり動けないし、すごく臭い。鼻があると、こんな臭いがするんだニャー。

配膳ロボ 臭いよねー。

望夫と咲子の家に配膳ロボットが帰っている。

望夫 ただいまー。

配膳ロボ おかえり。

望夫 誰だ君は！

配膳ロボ 大丈夫大丈夫、咲子だよ。岩永咲子。

望夫 咲子……？

【シーン9：不当逮捕一花畑公園／day】 15年前

田辺たかしが公園で花畑の手入れをしている。

田辺 おっと。あんまり走ると、危ないぞ。ほら、キリンさんの絆創膏だよ。こらこら、そっちのお花は摘んじゃいけないよ。え？ 本当だ、四葉のクローバーだね。きつといいところがあるよ。

田辺が花畑に水をやっているのと、二人組の警察官が花を踏み荒らしながらやってくる。

警官1 警察だ。逮捕令状がでている。田辺たかしという男はいますか。

田辺 えっ。

警官1 重大な罪を犯した男を探しています。田辺たかしはどこですか。

田辺 えっと、田辺たかしは僕ですが。

警官1 まったく、ここにいるのはわかってるんですよ。田辺たかしという男を出せと言ってるんだ。

田辺 僕です。

警官1 隠しても無駄ですよ。警察の捜査力を舐めないでください。犯人を庇った場合、あなたも共犯者になるんですからね。

田辺 だから、田辺たかしは僕ですし、僕は何もしていませんよ。

警官2 警部、見てください。ここ、少し温かい。田辺たかしはまだ近くにいますはずです。

田辺 ここにいます。

警官2 警部、見てください。犬のウンコです。まだ湿っているし、温かい。この犬のウンコがもし田辺たかしがした犬のウンコなら、まだ近くにいますはず。

田辺 犬のウンコですよ。

警官2 ビンゴ。ビンゴとウンコで韻を踏んだってわけじゃありませんが、犬のウンコの近くに、犬の足跡がありました。これはきっと田辺たかしが歩いたことよってできた犬の足跡です。きつと奴を抑えれば、この犬の肉球の跡と靴の跡が一致するはず。追いましゅう！

田辺 一致しないでですよ！ 犬の足跡ですよ！ 犬のウンコを触らないほうがいいですよ！

犬の足跡を追おうとする警官を止める男。

警官2 ええい貴様！ 黙って聞いていれば犬だ犬だとうるさいが、私たちは、国家の犬なんだぞ！！

田辺 あまり自分からそう言わないですよ。

警官2 犬と言えばさ！ お金持ちが、あの細い大きい犬！

警官1 ああ、細い大きい犬、ボルゾイだ。

警官2 ボルゾイ。そう、ボルゾイを飼ってるっていうのを見かけるけどさ、俺はいくらお金があってもボルゾイ飼いたいって思わないと思うけどね！ 金持ちになっても、普通に柴犬とか飼いたい！

田辺 は、はい。

警官2 でもじゃあなんでお金持ちはボルゾイ飼うのかな！ 金を持ったら、人は変わっちゃうってことなのかよ！！

田辺 あ！ 教えてくれよ！ 俺も金を持つちまったら、ボルゾイ飼っちゃうのかよ！ なな、なんなんですか一体！ 何をしに来たんですか！

警官2 逮捕だよ！ とにかく逮捕だ！ これ以上邪魔をするなら、公務執行妨害でしょっ引くぞ！

田辺 ずっと協力してますよ……！！

警官1 が出張って来る。

警官1 まあまあ、すみませんね。なにぶん若くて、血気盛んなんです、お許しください。ところで。犬と言え、犬のおまわりさんって曲がありますけれど、ああやって交番勤務の

田辺 犬のおまわりさんがいるということは、警視庁の方には、捜査一課の犬のおまわりさんとか、麻薬探知犬を連れた犬のおまわりさんとかもいるということなんですかねえ。犬のおまわりさんがキャリア組の警察官僚だったら、なんかイヤですよねえ。ただ、警視総監がブルドッグだったら、なんだか急にかわいい。そうは思いませんか？  
ええ、それはすぐく、心からそう思います……。

警官1 そういうわけで、田辺たかしの逮捕に向けてこうして我々ミニスカポリスがやってきたわけです。いい加減、田辺たかしの居場所を吐いてくれると助かるんですがね。

田辺 ……信じてください、田辺たかしは僕なんです。

警官1 あまりミニスカポリスを甘く見るなよ。これ以上強情なようだと、応援のミニスカポリスを呼ぶことになるぞ。

田辺 ミニスカではないと思います。

警官1 なんだと貴様！

警官2 待て。今、なんて言った？

田辺 ミニスカではないと思います。

警官2 違う、その前だ。

田辺 信じてください、田辺たかしは僕なんです。

警官1 なんだって？

警官2 先輩、今の聴きましたか？

警官1 ああ、俺でなければ聞き逃していたかもしれない。だが俺だから聞き逃さなかった。

警官2 こいつが田辺たかしである可能性が浮上してきました！

警官1 状況証拠が揃いすぎているな。

警官2 まさかお前、田辺たかしなんじゃないだろうな！？

田辺 はい、僕が田辺たかしです。

警官1 なぜ早く言わなかった？

警官2 14時48分。田辺たかしを逮捕。

田辺 僕が何をしたって言うんだ！ 容疑はいったい何なんだ！

警官1 が目配せし、警官2 が逮捕状を読み上げる。

警官2 下記の被疑事実によって、被疑者の逮捕を認める。田辺たかしの容疑は、詐欺、

田辺 えっ。

警官2 麻薬及び向精神薬取締法違反、

田辺 えっ。

警官2 武器等製造法違反、

田辺 えっ。

警官2 監禁致死、

田辺 えっ。

警官2 殺人。

田辺 えっ。

警官1 悪党め。

田辺 待ってください、それは本当に僕のことですか。

警官1 証拠は十分揃ってるんだ。

田辺 天地神明に誓って、何もないんです！ 僕はただのしがない花畑公園の管理人です。

警官1 自分の罪から逃げるな！ 正真正銘、お前の前世の罪なんだ。

田辺 ……？

警官1 が目配せし、警官2 が説明を始める。

警官2

お前はある新興宗教の教祖だった。元々は小さな聖典の勉強会グループだったが、ある時期を境にウミケムシという変な生き物を崇拝する宗教に方向を大きく転換、同時に過

激化し、まるでウミケムシが毒針をまき散らすようにテロリズムに走った。それらすべての元凶となった上、罪の償いもせず死んでいったのが、お前、田辺たかしの前世だ。どうだ？ 罪の自覚が芽生えたか。

田辺 前世のことは、身に覚えがありません……！

警官1 無責任なもんだな。

警官2 罪を認めて償おうという姿勢が見られませんね。

田辺 だって、前世のことも罪に問うなんて、ニュースじゃやっていなかったですよ。

警官2 法改正だ。凶悪犯罪を犯す魂を持った危険人物を現世で野放しにしておけるはずがない

だろう。世間の声を鑑みれば遅すぎたくらいだ。

警官1 おふくろさんが泣いてたぞ。育て方を間違えたんじゃないかってな。

田辺 母は悪くないじゃないですか……。だって僕は生まれたときから有罪だったんでしょ……。

警官1、田辺にまな板をわたす。

田辺 これは……？

警官1 前世犯には、重税が課せられる。

田辺 重税……？

警官1 その通り、お前ら犯罪者には、重いふるさと納税が課せられる。これは千葉県船橋市の

返礼品、チーバくんの刻印が入ったまな板さ。お前はこれを毎年何枚も受け取るのだ。

田辺 クソオ！ いらぬ……！

警官2 罪の重さを感じて来ただろう。

田辺 僕は、なんてことをしてしまったんだ……。

警官1 懲役刑はもっと辛く厳しいぞ。悪質な前世犯には、劣悪な環境の監獄の中で他の囚人た

ちの世話をしてもらう。

田辺 囚人の世話……。

警官2 そう。この公園の花畑には、我々警察組織が苦勞して集めた前世犯たちが植えられている。

このパンジーはシリアルキラ。このコスモスは、戦争犯罪者だ。そしてここに、

さつき逮捕したばかりの、下着泥棒常習犯を植える。

警官2、綺麗な花に向かって。

警官2 貴様！！ そんなに花びらを咲き誇らせて、自分が恥ずかしくないのか！！ 獄中で反省しろ！！

警官1

お前はこの監獄の管理をするのだ。囚人どもに水をやり、肥料をやり、雑草が生えたら

むしり、日々生かし続けて、罪に向き合わせ続ける。その様を見て、お前自身も罪に向

き合うんだ。監獄には、週に5日、朝9時から夕方17時までの長時間の服役を課す。

祝日は来なくてもいいし、年に5回は必ず有給休暇を取るように。副業をする場合は、

自分で確定申告を行うがいい。その他福利厚生については後ほどメールで送る資料を別

途確認するんだな！

次の前世犯を捕まえるため警官たちは去る。

呆然とする田辺。しばらくして、花に水やりを始める。

## 【シーン10：日常二人の家／night】

望夫が食器を片手にすこしぼーっとしている。

望夫 ご馳走様。

配膳ロボ どうだった？

望夫 うん、よかったよ。

配膳ロボ よかった。練馬C51地区の流しそうめんはコシが違うって評判だもんね。

望夫 うん。とってきてくれてありがとう。

配膳 どうしたの？ 元気ないじゃん。

望夫 うん。

配膳 望夫君らしくないよ。

望夫 らしくない？

配膳 らしくない。

望夫 らしくない？

配膳 咲子らしいじゃん？ 望夫君らしくない。

望夫 望夫君らしくない……。咲子らしい？

配膳ロボ はいこれ。

望夫 ん？

配膳ロボ ん？

望夫 何これ。

配膳ロボ ん？ プレゼントだけど。

望夫 プレゼント。

配膳ロボ 一生懸命手作りしました。

望夫 うん……？

配膳ロボ 結婚記念日じゃん。

望夫 あ、ああ！ あ！

配膳ロボ え、忘れてたの？

望夫 あ、いや……。どうだろう。

配膳ロボ いいよ。いろいろあったし。望夫君がこれを喜んでくれたら、それでいい。

望夫 嬉しいよ！ 嬉しい！ これ、どうやって動かすの。

配膳ロボ これね、このままじゃ動かないんだ。

望夫 そうなの？

配膳ロボ 魂が入ってないからさ。これはただの体。

望夫 魂？

配膳ロボ 望夫君、この子にならない？

望夫 はあ？

配膳ロボ 体、乗り換えちゃわない？

望夫 え。

配膳ロボ 君もロボットになりなよ。

望夫 ええ？

配膳ロボ 便利だよ。肩こりとかなくなるし。家電とか、繋げられるし。ハアッ！ ハアッ！

SE…ピロリン

配膳ロボ お風呂湧いたよ。

SE..ピピー

配膳ロボ 洗濯物もできた。

望夫 すぐえ。

配膳ロボ ね？ どう？

望夫 いや、どうって言われても、ちょっと……。

配膳ロボ 心配なんだよー。

望夫 心配？

配膳ロボ ニュース見た？ あの、戦争してた国の大統領、死んだんだって。でもそれで爆弾が発射されちゃって、戦争はますますひどくなってるって。

望夫 ああ、やってたね。

配膳ロボ

テロもすごいし、食糧も流しそうめんしかないし。この先不安になっちゃって、いろんなニュース見て、これからどうなるんだろうーって私、ここのコンピュータで計算したんだけど。

望夫 うん。

配膳ロボ これ人類、滅ぶね。

望夫 え。

配膳ロボ 何回計算しても、99・9%、これ人類、滅ぶね。

望夫 マジで。

配膳ロボ うん。だからさ、ロボットになっておけば、地上に生き物が棲めなくなっても、食べ物が無くなっても、生きていけるから。だから、望夫君。この子になりなよ。

問。

配膳ロボ いや、たしかに最初は抵抗あると思うけど、私もすぐ慣れたから。

望夫 犬じゃん。

配膳ロボ 犬？

望夫 犬だから。なんか、気遣いは嬉しいんだけど、ロボットになる以上に、犬になっちゃうから。

配膳ロボ ごめん、ちょっと、パーツが足りなくて。

望夫 うん。

配膳ロボ でも、便利だよ？ この子になってさ、元気に走り回って、お手したり、おすわりしたり。

望夫 犬じゃん。

配膳ロボ うん。

望夫 せめて人型が良かったな。

配膳ロボ うん、でも私ネコだからいいじゃん。ワンニャンロボット夫婦で。

望夫 でも、君のほうがなんか、クオリティ高いじゃん。

配膳ロボ それは、記念日に間に合わせようと思ったからじゃん。

望夫 いや、それは嬉しいんだけど。

配膳ロボ すごい頑張ったんだよ？

望夫 それはとても感じてるよ！

配膳ロボ 記念日覚えてなかったのに！

望夫 それは良いって言ったじゃん！

配膳ロボ あれは本気の良いじゃなかったじゃん！

望夫 わかった！ それは、ごめん！ 本当に、ごめん！ ……よっしゃ、今日も咲子っぽ

い！ 咲子っぽい。

配膳ロボ うん、とりあえずお風呂入ってきたら？

望夫 そうするよ。

配膳ロボ 暑かったら言っつてよ、下げるから。

望夫 それは僕でもできるよ。

望夫、去る。

配膳ロボ、歩き出すが、足を引き摺ってしまっつてうまく歩けない。

配膳ロボ やべ、私のパーツ、使いすぎちゃったかな……。

ガタガタと音を立てて去る配膳ロボ。

## 【シーン11…復讐一花畑公園/day】

田辺が水やりをしている。背後から大鎌を振り上げて近づく望夫。田辺が振り返って、目が合うと、大鎌を下げる。田辺が視線を戻すともう一度振り上げる。田辺、望夫の方を振り返る。大鎌に気づく。

望夫 あっ。  
田辺 え!?

大鎌で田辺を殺そうとする望夫。応戦し、じょうろで善戦する田辺。  
望夫、やがて大鎌を口にくわえる。

望夫 絶対に殺す！（口にくわえたまま）  
田辺 それは、三刀流のときにやるやつですよ。  
望夫 覚悟しろ！（くわえたまま）  
田辺 落ち着いて！  
望夫 動くな！（くわえたまま）  
田辺 理由が！理由がわからないので！  
望夫 ……話し合いをしよう。（くわえたまま）  
田辺 まずは、武器を降ろして。

大鎌を口から離す望夫。

望夫 望夫。岩永望夫。君のせいで、妻を殺された者だ。  
田辺 ……はい。  
望夫 だから君を殺しに来た。妻の仇をとる。  
田辺 本当に申し訳ございません。僕が前世で起こした事件のせいで奥様が亡くなられてしまったことは……。  
望夫 生きてるよ。  
田辺 え？  
望夫 うちの咲子は、元気だよ。なに勝手に殺してくれてるんだ。縁起でもない。  
田辺 あ、ん？  
望夫 うちの殺された妻は、生きてるって言うてるの。  
田辺 ……殺された奥様は、生きてる？  
望夫 なんだ？ 若女将は小学生みたいに言うな。  
田辺 言うてないです。  
望夫 ロボットになって生きてるんだよ。体がダメになってから、ファミレスのネコ型配膳ロボットの体に魂を移動させて。だから今僕は、ネコ型ロボットと暮らしてる。  
望夫 え？  
田辺 だから、ネコ型ロボットと暮らしてるんだ。  
田辺 ……ドラえもんの話ですか？  
望夫 なんだ!？ ふざけてるのか!？  
田辺 ああ、ふざけてないです！ ごめんなさい！ ……ただ、生きてらっしゃるなら、なんでも仇をとるのになって。  
望夫 ……あれ？

田辺 帰り道は、あちらになります。  
望夫 でも殺されてるからな！ あんたに！（振りかぶる）  
田辺 でも生きてるんですよね？

望夫 あれ？

田辺 足元にお気をつけてお帰り下さい。

望夫 だから、殺されてるからな！

田辺 でも生きてるんですよ？

望夫 殺されてるから！

田辺 生きてるんですよ！？

望夫 なんか開き直ってないか！？

田辺 開き直ってませんよ！

望夫 自分の罪の意識がないのか！

田辺 いやいや、もちろん、とんでもないことをしてしまった、してしまったんだろうなどは

望夫 自覚しています！

田辺 してしまったん「だろうな」？

望夫 いや、すみません。本当に、反省しています。

望夫 嘘だ。君は罪から逃げている。

田辺 申し訳ありません。

望夫 許してほしただけの謝罪だ！

田辺 本当に思っています！

望夫 自覚のない言葉は聞きたくない！

田辺 自覚できるわけないでしょ！！！！！！

望夫を突き飛ばす田辺

望夫 へえ？

田辺 記憶もない！ 顔も違う！ 時代も違う！ 自覚できるわけないでしょ！ ……

…いてっ。

子どもがやってきて、田辺に卵を投げつける。そして捨て台詞。

子ども チンパンジーのもらいグロ！ おしっこのカニ。駐車場の天気予報！

走り去る子ども。

田辺 花畑公園によく来る子どもたちです。以前は四つ葉のクローバーを見せてくれたりしたんですけどね。

望夫 聞いたことない悪口を言っていた。

田辺 毎日来るもんで、悪口も新しい領域に入ってるんです。子どもの創意工夫ってすごいですよ。

望夫 あれが、毎日来るのか。

田辺 辛いですよ。四六時中、誰かから責められ続けるのは。

望夫 当然だろ。あんたの前世なんだから。

田辺 ええ、そうやって、お前の魂が罪深い、魂が汚れている、魂の犯罪者だ、って言われ続ける、ああ、自分は本当に汚い犯罪者だ、悔い改めなければ、と思います。でもどう

望夫

したって、僕はその、前世だと言われている大犯罪者のことを自分だと思えなくて。すると時々、こう思うんです。あ、魂なんて、嘘なんじゃないかと。

田辺

魂や前世なんてもの、はじめから存在しなくて、みんなが嘘をついているんじゃないかと。

望夫

……何を言ってるの。魂がないって、そんなわけないじゃん。

田辺

じゃあ、魂見たことありますか？

望夫

ええ？

前世だって、前世チェッカーがそう言ってるだけで、全部デタラメかもしれないじゃないですか。

望夫

そんなのさあ、見たことないから地球が平らかもしれないって言ってるのと一緒にじゃん。

田辺

科学者の先生も政治家の先生も魂があるって言ってるんだから……。

望夫

科学者も政治家も地球が平らだと思ってた時代だってありますよ？

田辺

現実逃避をするな！ 都合のいい妄想だろ！

望夫

妄想じゃないです。

田辺

妄想だ！

望夫

魂なんてないんですよ。

田辺

あるっての！

望夫

ないんです。

田辺

あーるー！

望夫

なーいー！

田辺

あーるー！

望夫

なーいー！

田辺

ある！

望夫

ない！

田辺

あーるー！

望夫

なーいー！

田辺

あーるー！

望夫

じゃあ、何しに来たんですか！？

田辺

はあ！？

本当に魂が不滅で、生まれ変わって行って、その人の存在がなくならないなら、どうして人は、復讐なんてするんですか？

望夫

え。

田辺

人は死んでも、魂が生まれ変わって幸せに暮らしていくっていうなら、それで結構じゃないですか。でも、そう言われたって納得できないからあなたはここに来たんですよ？

望夫

でもね、僕が生まれつき犯罪者だって言われても納得できないことと、それは一緒のことですよ。魂なんてまやかashedです！ 人間の存在は、死んでしまったらそれまでなんですよ。前も後もないんです！ 無なんですよ！ 無！

田辺

え、じゃあ、魂っていうのは、なかったってこと……？

望夫

僕はそう思います。

田辺

そうか、魂なんてなかったのか。

望夫

はい。

問

望夫　じゃあ、うちのロボットは、咲子の魂が宿ってるわけじゃない偽物ってことかー。

田辺　そうですよ。そんなことあるわけじゃないじゃないですか。

望夫　じゃあ、あれは咲子じゃないってことかー。

田辺　うんまあ、そうですね。

望夫　うん、てことは、本物の咲子は、消えたってことかー。

田辺　あ。

望夫　消えたってことかー。

田辺　ウソウソ、ウソです。

望夫、もう一度大鎌を手にとって、振りかぶる。

田辺　って思うじゃないですか。忘れてください！　今は、僕の都合の良い妄想でした！  
妄想？

田辺　僕が、罪の意識から逃れたくて、つい無責任なことを妄想しちゃっただけです！　ごめんなさい！　魂はありますよ。あるじゃないですか。

望夫　そうだよね？　あるよね？

田辺　ありますよ！　ほらここにもここにも！（胸を叩く）

望夫　あるよね？

田辺　ありますあります！　すごいある！

望夫　よかったー！　じゃああのロボットは？

二人　本物ですよ。

望夫　うんうん、じゃあロボットは、咲子、

二人　ですよね！

望夫　うんうん、てことは、咲子は、

二人　生きてますよね？

田辺　うんうん、てことは、復讐は？

二人　しなくていい。

望夫　なんだそうか！

田辺　そうですよー！

望夫　なんだー！

二人、なぜかハグする。

望夫　うわー、何してたんだらう僕は。

田辺　本当ですよー。

望夫　すみませんお騒がせしちゃって。

田辺　いいんです、いいんです！　望夫さんは、不安だったんですよ。

望夫　え？

田辺　シヨックなことが続いて、不安だったんですよ。

望夫　は、はい。不安でした。どうしても時々、咲子のこと信じられなくて。最低です、見た目が変わったからって。

田辺　自分を責めないで。

望夫　僕は、どうしたらいいんだろう。

田辺　決まってるじゃないですか。咲子さんに会ってくださいよ。

望夫　会う？

田辺 不安なことは、打ち明けてみればいいんです。そうしない手はないですよ。だって咲子さん、生きているんだから。

望夫 そうか。そうか……！

田辺 人生っていうのは、そういうものですよ。

望夫 田辺さん……。

田辺 そう、つまり人生は、愛であり、アガペーなんです。苦しみに囚われてしまったら、それはもう、サタンです。あなたの敵を愛することが出来る人こそが、メシアなんですよ。え？

望夫 さ、こんな物騒なものにおいて、咲子さんに会いに行ってください。

望夫、大鎌を置く。

望夫 田辺さん。ありがとうございます。

田辺 いえ、望夫さん。アガペー。

望夫、去ろうとする。

田辺、警官を呼ぶ。

田辺 おまわりさん！ こっちです！ 銃刀法違反！ 殺人未遂！

望夫 えっ！？

警官がやってくる。

警官 警察だ！ 待て！！

田辺 早く捕まえてください！ 薄汚い犯罪者です！

望夫 田辺さん！？

警官 17時40分！ 銃刀法違反、殺人未遂により現行犯逮捕！

望夫 冤罪だ！！

警官 冤罪じゃない！！

望夫 たしかに！！ 現行犯だ！！

警官 その通りだ。反省しろ。殺人未遂犯には重いふるさと納税が課せられるぞ。ほら、佐賀県嬉野市の佐賀牛と、魚沼産こしひかりだ。

望夫 クソオ！

田辺 え、僕のよりよくないですか！？

警官 重いふるさと納税の返礼品は大いなるふるさと納税アプリ「サトフル」によってきだめられている。

田辺 なんだよ、僕殺されかけたのに。なんとか言いくるめられたから助かりましたけど。

望夫 ……。

田辺 そんな目で見ないでくださいよ。僕だって必死だったんだから！ ちょっともう、本当に守ってくださいよ。この人で8人目なんですよ、僕に復讐しようとしてきた人。もう、言いくるめるのばかり上手になっちゃって。

望夫 ……。

警官 この頃は拘留所も裁判所も前世犯の人間や動物でいっぱいだ。この程度の犯罪なら、身元引受人がいればすぐに仮釈放がつくだろう。お前、身内はいるか？ 身元引受人の連絡先は？

望夫　　いません。

警官　　なに？

望夫　　身元引受人は、いません。僕の妻は、死にました。  
警官　　そうか。ならさっさと来い。

配膳ロボの音楽が聴こえてくる。

田辺　　なんだこの音楽。

配膳ロボの声が聞こえてくる。

配膳ロボ　　待ってくださいーい！　今行きますー！　私が、その人の妻ですー！

警官　　なんだお前。身内がいるじゃないか。

田辺　　あ、それは……。

警官　　はやく来てください！

配膳ロボ、あきららかに半壊状態でガタガタいわせながらやって来る。

3人　　壊れてるー!!!

配膳ロボ　　どうも、岩永望夫の妻です。

3人　　え、壊れてるー!!!

配膳ロボ　　壊れてません。

警官、「え、なに？　ロボット？」と困惑。田辺、「えーっと、そうなんですよ」と説明を試みる。

望夫　　君、壊れてるじゃないか！

配膳ロボ　　いや、別に？

望夫　　別にじゃなくて！

配膳ロボ　　大丈夫大丈夫。これは、壊れてるっていうか、モデルチェンジだから。

望夫　　嘘つけ、壊れてるよ！

配膳ロボ　　ごめん。ちょっとパーツ足りなくなっちゃった。

望夫　　じゃあ家にいろよ。なんで来たんだよ……！

配膳ロボ　　いや、君がうちの巨大ガマ持って行っちゃうからさあ。ペランダのツタ、刈れないじゃ

望夫　　んと思っ探してたらさあ。

望夫　　僕が刈るよ。

配膳ロボ　　え？

望夫　　いつも僕が刈ってたじゃん。

配膳ロボ　　ごめん、もっかい言っって？

軽い爆発音。

望夫　　ああちよっと！　カバーとれちゃってるじゃん！　ここのゴムパッキンもゆるゆるだし！

配膳ロボ　　あ、ごめん、その角度落ち着くわ。ちよっとそれでお願……ぐはっ！

望夫 咲子おお！ 咲子！

配膳ロボの体が崩れ、中にあった魂魄骨があらわになる。

配膳ロボ うん、うん、大丈夫大丈夫。

望夫 咲子。

配膳ロボ うん？

望夫 君、やっぱり咲子じゃないだろ。

配膳ロボ え？

望夫 ごめん。やっぱり咲子じゃないよ……。

配膳ロボ え、私、うまくできていなかったですか。

望夫 ……。

配膳ロボ ごめんなさいニヤー。

配膳ロボ、壊れる。魂魄骨が崩れる。

博士、ゆっくりと拍手しながら登場。

博士 いいじゃん。

警官 え？

博士 いや、いいじゃん！

田辺 誰ですか？

博士、配膳ロボの頬に手を当てる。

博士 涙だ。いいじゃん！ やっぱロボットに感情が芽生えたら、こうじゃないと！ 人間とともに暮らして、壊れて泣く。いやあ、これだね。

博士、配膳ロボをスマホで写メる。

望夫 誰ですか。あなたは。

博士 え？ 誰ですかって？ みなさん覚えてないですか？

顔を見合わせる3人。

博士、王様ゲームの当たりくじを取り出しながら、

博士 誰かって聞かれたら、私は、王様ですよ！

望夫 王様？

王様 王様ゲーム！！

全員登場。

全員 イエーイ！！

男 はいはいはい、このくじ、もっかい引いて、赤いの引いた人が次の王様だから！ はい引いて引いて。

全員、くじを引く。

男 王様だーれだ！  
女 あたしだ！

全員、口々に「えー、何命令するの」「変なのやめてよ」など言い合う。

女 じゃあ、1番と5番は、このへんを片づけて。

1 は！

女 2番は、テーブルを出して。

2 は！

女 3番は、このお肉を美味しく調理して。

配膳ロボ は！

女 4番と6番は、お肉が焼けたら食べちゃって。

望・咲 は！

女 7番と8番は、このポツキーでポツキーゲームね。

7・8 は！

男 王様の命令は？

全員 ぜったーい！

## 【シーン12…時間—二人の家/day】

食卓につく望夫と咲子。配膳ロボが肉を焼いている。

咲子 いやあ、バレちゃったか。

望夫 うん。

咲子 けっこう、色々教えたんだけどね。記憶とかも、全部コピーしたし。うん。

望夫 それで、私の代わりにになってねって頼んだんだけどねー。ならなかった？

望夫 なるかー!!!

咲子 ええ？

望夫 代わりに、なるかー!!!

咲子 ええー、いい線いってなかった？

望夫 いや、似てたけど。すごい似てたけど。それでもさ、代わりになんかなるわけないだろ。

咲子 そうかなあ。

望夫 ていうか、死ぬなよ……。

咲子 ええ？

望夫 死ぬなよ。あ、いや、死ぬなー!!!

咲子 それは、私だって別に死にたくて死んだわけじゃ……。

望夫 どっちかにしろー!!!

咲子 えっ。

望夫 浮気して、死んで、これもう、どっちに悩んだらいいのかわかんなくなっちゃって、ものすごく混乱したから。もう、せめて、どっちかにしてくれよ!

咲子 たしかに。

望夫 ていうか、説明責任を、果たせー!!!

咲子 ごめん、本当であれば、出来心で……。

望夫 ああ、いい。もう、今さらいい。こんな時に話したくないよ。

配膳ロボが肉を持ってくる。

配膳ロボ お取りくださいニャー。

咲子 あ、私は……。

望夫 食べてよ。

咲子 いや、私、コンビニ弁当しか食べられない……。

望夫 あのさ、君がいなくなっただけから、この国じゃ流しそうめんしか食べられなくなったんだから。捕まった方がいいもの食べれるって、おかしーよ。絶対に食べてもらう。

咲子 うん。

望夫 いただきます。

咲子 いただきます。

肉を食べる二人。

望夫 うまつ! なにこれ、うんまつ! やばあ。

咲子 うん。

望夫 うまいなあ。

咲子 うまい。

食べる二人。

咲子 望夫君はさ。

望夫 うん。

咲子 これから、どうしていくの？

望夫 これからって？

咲子 どういう風に生きて、どういう風に死んで、生まれ変わったら何になりたい？

望夫 考えたこともない。

咲子 なんかも、ダンゴムシとかになりそう。

望夫 なんだよそれ。

咲子 似合うもん。命短いよ。

望夫 君は今何なの。

咲子 うーん、なんだか、何もわかんないんだよね。私こそ、すごく小さな生き物なのかも。

望夫 それか、また死んじやってるか。もしかしたらこのお肉かもしれないよ。どっちにしろ、私の方が命短いね。

望夫 えー、また？

咲子 うん。

望夫 何かの赤ん坊なんじゃない。これからまたいろんなことがわかっていくんだよ。

咲子 そして、過去のことは忘れてしまう？

望夫 うん。

間

咲子 私はさあ。

望夫 うん。

咲子 これから望夫君にとって、1日に100個の、ネガティブな思い出とか、ネガティブな影響として現れるんだと思う。

望夫 うーん。まあ、そうだったら、僕は1日に150個の良い思い出か、普通の思い出をすることにするよ。

咲子 うん。

望夫 うまっ。

咲子、席を立て、去っていく。

望夫 うまいなあ。これ、ほんとにうまい。